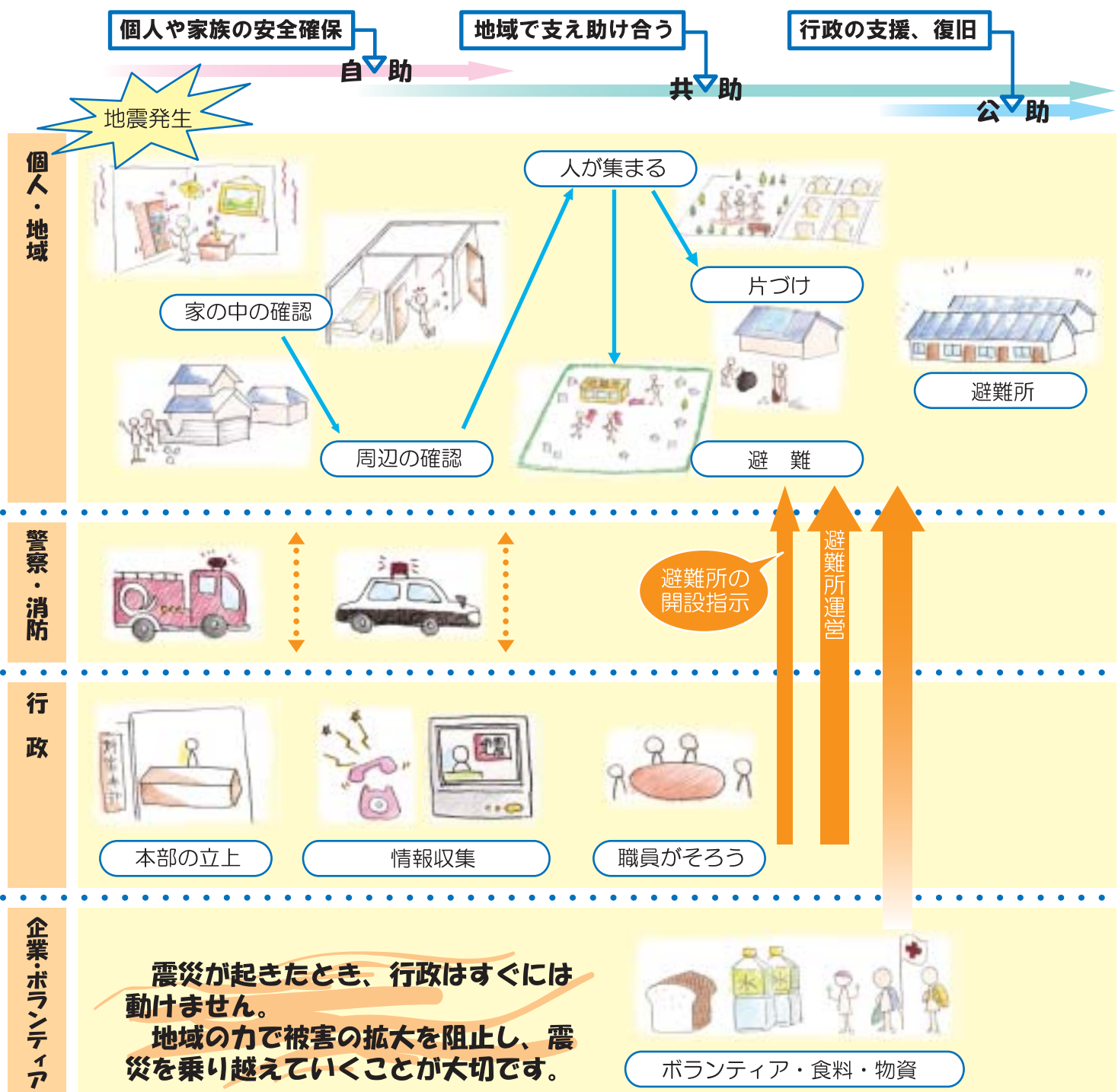


◆地震が起きてからのそれぞれの対応

防災においては、まずは自分の身は自分で守る「市民としての心構え」が基本となります。個人の安全を確保する「自助」から、避難所の本格的な運営をはじめ復旧・復興への「公助」が始まるまでには、震災の程度によってその長さは異なるものの一定の時間を要します。その時間を、あるまとまりを単位として被災者が集まり、相互に助け合い支え合うことで、今後の生活の安心の向上に向けてどう対応するか、「共助」が重要となってきます。

被害を最小限に食い止め、スムーズに復旧・復興に向かうかは地域の力量できまるといっても過言ではありません。今後、「すぐに」「すばやく」「すえながく」震災への対応を考えていく上で、建物の倒壊やライフラインの破壊など震災の大きさが増すにつれて増大する市民ニーズと、地震発生後の初期段階における行政の対応力を埋めるための「共助」の向上、つまり「地域力」の向上が重要な課題となってきます。



震災が起きたとき、行政はすぐには動きません。
地域力で被害の拡大を阻止し、震災を乗り越えていくことが大切です。

発行・お問い合わせ

財団法人 福岡アジア都市研究所

〒810-0001 福岡市中央区天神1丁目10-1
 Phone 092-733-5686 fax 092-733-5680
 e-mail info@urc.or.jp
 URL http://www.urc.or.jp

再生紙マーク

みんなで「すぐに、すばやく、すえながく」

地震に負けないコミュニティとまちづくり



災害時における コミュニティの心構えと行動 ~5つの提言~

- 2005年3月20日に発生した福岡県西方沖地震は、福岡市を中心に多大な被害をもたらしました。しかし、コミュニティの力によって、平常の都市生活や経済活動の回復が短期間にでき、改めて、**災害時におけるコミュニティの重要性**を知ることになりました。
- 中央区の大名や警固、西区の北崎の方々から、震災に対してどう行動したかお話を聞き、「**すぐに」「すばやく」「すえながく**」、みんなの力で被害を止め、どう震災を乗り越えていくかを、**コミュニティの心構えと行動~5つの提言~**としてまとめました。